



らくひんよとり ACP実践へ「塾」開講

看取り支援・課題学ぶ

豊平区の西岡・福住地区を拠点に多職種協働の包括的・継続的な在宅医療の提供を目指す協議会「とよひら・りんく」（会長・五十嵐知文西岡病院副院長）は、「アドバンス・ケア・プランニング」（A

CP）の導入と実践へ向けた、看取り支援とその関連課題についての研修会「りんく塾」を開講した。看取りに携わる各職種が現場にACPを反映することを目標とし、症例発表やグループワーク

を通じて、医療介護連携や多職種連携を推進する。

今年度第1回は、札幌市在宅医療協議会会長の坂本仁坂本医院理事長写真Ⅱが、在宅医療における意思決定の重要性とその共有のあり方について講演した。

長期療養が必要な患者の多くが住み慣れた場所で生活を続けたいという願いを持つことへの理解と、「患者と十分に話し合う時間が大切で、説明と同意に至るプロセスが重要」と強調。事例を交え、「医学的適応・患者の意向・QOL・周囲の状況」に留意した意思決定支援と、訪問看護など多職種との協働を訴えた。